

5.11 廃棄物等

「工事の実施」に係る廃棄物等が環境へ与える負荷の量について、予測及び評価を行いました。

5.11.1 予測手法

予測対象とする影響要因及び環境影響の内容を表 5-100 に示します。

予測は、工事の計画から「建設工事に伴う副産物（建設発生土、脱水ケーキ^{※1}、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊）」の発生状況を把握しました。

予測地域は事業実施区域、予測対象時期は工事期間中としました。

表 5-100 予測対象とする影響要因と環境影響の内容

影響要因		予測の基本的な手法	予測地域	予測対象時期等
工事の実施	<ul style="list-style-type: none">・放流施設の増設等工事・工事用道路の設置の工事・建設発生土の処理の工事	工事計画から建設副産物ごとの発生状況を把握しました。 発生状況の把握は、可能な限り定量的に行いました。	事業実施区域	工事期間

※1 脱水ケーキとは、粘土や汚泥を脱水機にかけて脱水した後に残った固形の物質のことです。

5.11.2 予測結果及び環境保全措置の検討

廃棄物の予測結果を表 5-101 に示します。

表 5-101 廃棄物等の予測結果の概要

項目		予測結果の概要	環境保全措置の検討 ^{※1}
廃棄物等 (建設工事に 伴う副産物)	建設発生土	建設発生土は、減勢工の基礎掘削などで発生しますが、対象事業実施区域内に計画された建設発生土受入地の容量を超えない量と予測され、影響は小さいと考えられます。	—
	脱水ケーキ等	脱水ケーキ等は、濁水処理施設で発生しますが、対象事業実施区域内に計画された建設発生土受入地の容量を超えない量と予測され、影響は小さいと考えられます。	—
	コンクリート塊	コンクリート殻は、既設構造物の撤去などで発生しますが、対象事業実施区域内に計画された建設発生土受入地の容量を超えない量と予測され、影響は小さいと考えられます。	—
	アスファルト・コンクリート塊	アスファルト・コンクリート塊は、工事用道路工事等で発生しますが、対象事業実施区域外の再資源化施設へ搬出・処理され、再生利用を行う計画です。	—

※1 「—」は環境影響予測の結果、影響は小さいと考えられるため、環境保全措置の検討を行わない項目を示します。

5.11.3 評価の結果

「工事の実施」に係る廃棄物等が環境へ与える負荷の量について予測を実施しました。

予測の結果、発生した建設副産物は、工事現場内での再利用及び再資源化施設での再生利用により、環境への負荷は小さいと考えられます。

以上のことから、廃棄物に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されると判断しています。